

県外出張報告（愛教研旅費）

愛教研視聴覚・情報教育委員会として、県外出張者を派遣することができた。以下に出張報告をまとめ、情報共有を図る。

（１）第９回関西教育ＩＣＴ展

日時 令和 7 年 8 月 7 日（金）～ 8 日（土）

場所 インテックス大阪（大阪市住之江区）

内容 講演・セミナー、企業展示

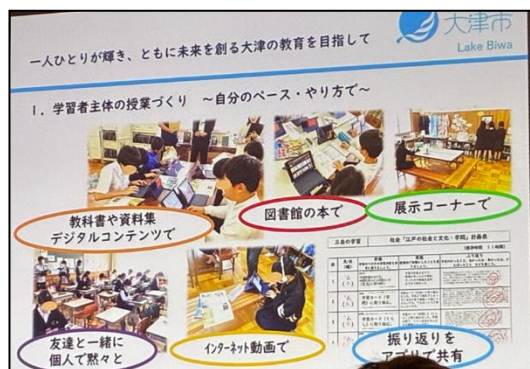
次代が求める学びや教育の改革が進む中、教育委員会関係者や教員を対象に、多様な学習を支援する教材や教育コンテンツ、校務支援システムなどが展示されている。最新情報を得るとともに、専門家による日々の実践に役立つ話を聞ける絶好の機会となっている。

1. アナログとデジタルのベストミックス

様々な自治体や学校の事例を聴く中で、デジタルとアナログのベストミックスによる実践が多く見られた。大津市の事例では、社会科の学習で大きな屏風を体育館に貼り、児童が気になった部分をタブレット端末で撮影することから学習が始まっていた。

その後、児童は教科書・資料集・図書館の本・デジタルコンテンツなどを使い、それぞれの方法で学習を進め、振り返りはアプリで共有するという流れであった。

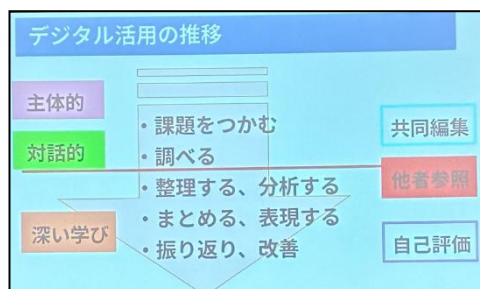
「端末を文房具のように使えるようにする」という言葉が印象的であり、目指すべき姿だと感じた。ICT 利活用の具体的な事例に触れることができた。



2. 自由進度学習と他者参照

タブレット端末やアプリを活用するなど、学習方法を児童生徒に選択させる「自由進度学習」という考え方に触れることができた。ネクスト GIGA の領域では、この自由進度学習を実施できる学級経営を目指す必要がある。

そのため、児童の自主性・主体性だけでなく、ネットやツールのリテラシーを育て、「紙かタブレットかを選ぶ力」を育てることも重要であると感じた。また、「他者参照」の考え方も各講義で強調されていた。



3. 生成 AI を含めた校務 DX

デジタル庁・総務省・文部科学省・経済産業省が令和 7 年 6 月 13 日に発表した「教育 DX ロードマップ」についても紹介があった。その中でも「12 のやめることリスト」には、勤務校でも実施可能な内容が含まれており、積極的に進めていきたいと感じた。

12のやめることリスト（デジタルに変えること） ～教師が学習者に向き合う環境を実現するために～	
デジタル完結・フンスオンリーの徹底により、「デジタルの良さ」を実感しながら、教職員の負担を大幅に軽減し、学習者に向き合う時間を確保することが取組の第一歩である。そのため、12のやめること（デジタルに変えること）のリストを作成した。各教育委員会・学校において、積極的なデジタル化を進めることが期待される。政府としても、「校務DXダッシュボード」等を活用しながら、校務DXの実現に向けた取組を進めていく。	
☐ ① 電話等による児童生徒の欠席連絡等の受付	
☐ ② 紙での保護者への調査・アンケート	
☐ ③ 紙での各種調査票等の学校から保護者への配布・保護者から学校への回収	
☐ ④ 紙での教職員への調査・アンケート	
☐ ⑤ 新入学児童生徒の名簿情報の校務支援システムへの不必要な手入力	
☐ ⑥ 電話や書面による保護者との日程調整	
☐ ⑦ 職員会議等資料の紙での共有	
☐ ⑧ 紙での児童生徒への調査・アンケート	
☐ ⑨ 学校から保護者へ発信するお便り等の紙での配布	
☐ ⑩ 教職員が作成した教材等の各自での保存	
☐ ⑪ 学校徴収金の現金徴収	
☐ ⑫ 紙での学校内外の行事日程や特別教室等に係る利用予約等の管理	

※なお、デジタル機器を有しない家庭への対応など、地域や学校の実情を踏まえ柔軟な対応を進めることが重要

(2) 第 51 回全日本教育工学研究協議会全国大会 茨城つくば大会

日時 令和 7 年 11 月 14 日（金）～ 15 日（土）

場所 つくば国際会議場、つくば市立竹園東小学校（茨城県つくば市）

内容 授業公開、講演、企業展示

愛教研視聴覚・情報教育委員会が団体会員になっている日本教育工学協会の全国大会に参加した。公開授業を行ったつくば市立竹園東小学校は、1977 年（昭和 52 年）に、日本で初めて CAI システム (computer-assisted instruction) を導入し、コンピュータ支援学習を行った学校だった。今の ICT 教育の原点であり、約 50 年にわたり先導的役割を果たしてきていた。今回は探求学習の場面を中心に授業公開が行われ、ICT の利用はもちろん、探求過程において、アナログの良さも生かした学習活動が充実していた。



1. 授業公開：5 年生理科「てこのはたらきとしくみ」

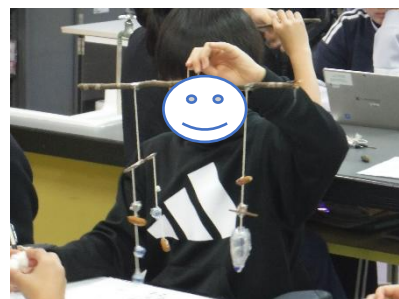
5 年生理科「てこのはたらきとしくみ」では、てこが水平に釣り合う条件を、

(1) シミュレーションソフト「PhET」を用いて算数的視点から追究するグループ

(2) モビール作成を通して図工的視点から追究するグループ

に分かれて学習していた。

計算上は釣り合うはずでも、「吊り下げる位置が 1 ミリずれるだけで釣り合わなかった」という児童の振り返りがあり、デジタルとアナログの良さが効果的に組み合わせられていたことが分かる。

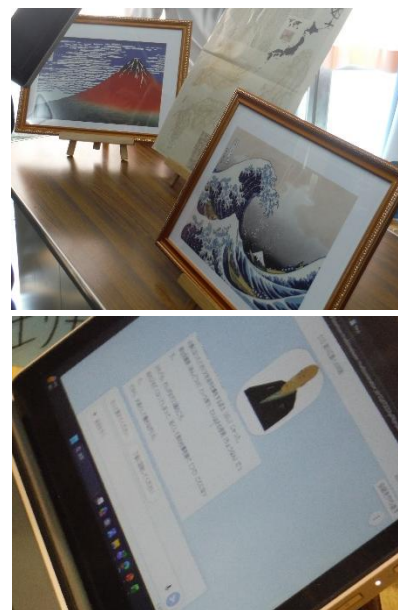


2. 授業公開：6年生社会科「町人の文化と新しい学問」

6年生社会科「町人の文化と新しい学問」では、『生成AIを個々の学びの「伴走者」』と捉え、AIに当時の民衆になりきってもらい対話を繰り返すことで、当時の人々の思いを想起しながらまとめていた。

一方で、教室には解体新書の複製本、浮世絵、伊能図などを自由に手に取れるように配置し、実物に触れる体験も大切にしていた。

これらは、愛媛県教育委員会が提唱する「デジタルとアナログのベストミックス」が実践されている授業であり、目指す方向性を明確に示していた。



3. 講演名「GIGA スクール第2期とデジタル・シティズンシップ」

講演では、次期学習指導要領の改訂やサードGIGAスクール構想において、より質の高い探究的な学びを実現するため、情報活用能力の抜本的向上が求められていることが示された。タブレット端末の授業活用は進んでいるが、主体的・対話的で深い学びの部分でさらに活用できるようにしていくことが重要であると述べられていた。

令和7年度 県外出張報告のまとめ

NEXT GIGAの着実な推進や生成AIなど新たな情報技術の教育利用が進む中、最先端のICTに関する授業実践や研究発表に触れることの重要性を改めて感じた。

教育は日々進化しており、特にICTは変化の大きい領域であるため、このような研修に参加することは非常に有効である。愛教研として、多くの先生方に県外出張の機会と予算を確保していただいているので、これを有効に活用し、愛媛の視聴覚・情報教育の推進に向けて取り組む機会をさらに設けていきたい。